

「第74回手術手技研究会」の開催

10月9日、10日の2日間。くにびきメッセにて、「第74回手術手技研究会」の医学会が開催されました。

当学会は、昭和48年に大阪大学第二外科を中心に発足し、研究会の開催は、今回で74回目となる歴史と由緒ある医学会です。内容は、外科手術の技術について研究されている学会で、今回の大会長である大阪大学大学院消化器外科学の土岐祐一郎教授が島根県のご出身というご縁もあり、松江市のくにびきメッセで初めて開催されることになりました。学会のテーマも、この神々の地に相応しい「手術の神様」が選ばれました。

当学会は、当初は今年5月に開催する予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で10月に延期となっていました。そのため今回は、会場使用についても、あらためて再検討をされ、最終的に会場のくにびきメッセには、3つのオーラル会場（国際会議場、多目的ホール、501大会議室）と企業展示（小ホール）が設けられました。またオーラル発表の2日目には、国際会議場と多目的ホールを中継で結んだサテライトでのセッションも行われました。懇親会については、大会長のアイデアで、地元特産の各種の干物を炙ったものと缶ビールが参加者に振舞われ、着席スタイルで行われました。現在のコロナ禍においては、学会の懇親会についてはまだまだ制約が多い中、参加者の方々は、島根県の海の幸の香りも楽しんでいらっしゃいました。

また今回の学会では、写真のような感染症対策に関する様々な予防策がとられ、ここまでやればコロナ禍の中でも安心して学会が開催できることを実証することができました。

この学会は、くにびきメッセとしてもコロナ禍において初めて開催された学会となりました。期間中は、全国から約150人の関係者が参加をされました。今回、大阪大学の土岐先生を始め、関係者の皆様方は大変なご苦勞をされましたが、それでも現在の状況下で学会を開催いただいたことに関して、当館としても心より感謝申し上げます。

今後は、当館でもこのような全国規模の催し物も控えています。今回の学会開催を通じて得た経験とノウハウを、それに生かしていきたいと考えています。

